

平成 30 年 12 月 10 日

紫波町議会議長 武 田 平 八 殿

紫波町議会福祉文教常任委員会
委員長 作 山 秀 一

所 管 事 務 調 査 報 告 書

本委員会の所管事務について、調査の中間結果を下記のとおり、会議規則第 76 条の規定により報告します。

記

1 調査事件

平成 30 年度学校経営等全般について

2 調査期日及び調査先等

- (1) 平成 30 年 6 月 20 日 (水) 紫波町立紫波第三中学校、紫波町立水分小学校
- (2) 平成 30 年 10 月 5 日 (金) 紫波町立星山小学校、紫波町立佐比内小学校

3 参加者

委員長	作 山 秀 一
副委員長	細 川 久
委員	戸 塚 美 穂
委員	阿 部 美佳子
委員	細 川 恵 一
委員	北 條 喜久男
事務局	谷地館 勝

4 調査結果

別紙のとおり

1 沿革の概要

昭和 37 年	志和、水分中学校の統合により学校創立
昭和 39 年	校舎落成式、記念式典挙行
昭和 45 年	プール竣工
昭和 46 年	創立 10 周年記念式典挙行
昭和 62 年	グラウンドの夜間照明施設完成
平成 22 年	校舎耐震補強工事完成
平成 23 年	創立 50 周年記念式典、記念祝賀会
平成 29 年	学校公開
平成 29 年	全国小中学校リズムダンスふれあいコンクール 2 A参加

2 在籍生徒数

学年 組	1 年				2 年			3 年			合計
	A	B	あずまね	計	A	B	計	A	B	計	
男	12	12	1	25	9	8	17	12	12	24	66
女	8	7	0	15	13	13	26	11	11	22	63
計	20	19	1	40	22	21	43	23	23	46	129

3 学校経営の方針

(1) 学校教育目標

社会の中で生き抜く基礎となる力を養い、知・徳・体の調和の取れた生徒を育成する。

(2) 目指す生徒像

～「志」をもち、その実現のために一生懸命生きる生徒～

ア 基本的な学習習慣が身につけている生徒

イ 基礎学力を身につけ、発展的に学習に取り組もうとする生徒

ウ 基本的な生活習慣が身につけている生徒

エ 働くことをいとわず、進んで仕事をする生徒

オ 自分に厳しく他人にやさしくする、心豊かで思いやりに満ちた生徒

カ 地域を知り、地域の一員としての自覚を持って行動する生徒

キ 高い志を持ち、目標に向かって努力する生徒

ク 命の大切さを理解し、健康や安全に気を配る生徒

(3) 目指す学校像

～家庭や地域に連携していく学校～

- ア 生徒と教職員の意欲と活力に満ちあふれる学校
- イ 質の高い分かり易い授業を提供する教師と学習意欲に満ちあふれる生徒がいる学校
- ウ いじめや暴力がなく、一人一人大切にされ、喜びと充実感を持って生活できる学校
- エ 文化の薫り高い学校(さわやかな挨拶と明るい歌声の響く学校)
- オ P T A活動を軸に家庭・地域と学校が信頼関係で結ばれ、しっかりと連携・協働できる学校

(4) 目指す教師像

～生徒一人一人の願いを洞察し、それに心から答えていく教職員～

- ア 生徒一人一人の良さや可能性に目を向け、情熱をもって指導する教師
- イ 自己研鑽に努め、同僚性を持ち、授業力の向上に努める教師
- ウ 教育公務員としての自覚を持ち、信頼される教師

4 いじめ対策

県内一安心できる学校を目指して、大きな問題のない今だからこそ、いじめが起きないようにするにはどうしたら良いのか、いじめに発展してしまう行動とは・・・など全校生徒で考える機会を持ち、意見交換をして生まれた「いじめ撲滅宣言」を全会一致で定め採択され宣言した。

5 施設管理について

- (1) 各階廊下の照明スイッチが一か所にしかなく不便である。
- (2) トイレが1階にしかなく、我慢している生徒がいるようである。
- (3) 校舎の雨漏りする箇所が多く、また、雨が降ると西昇降口の前は水溜まりになり海のような状況になる。校舎北側の排水柵が詰まり、水が流れて行かない。
- (4) 各教室の入口の戸がすりガラスのため中が見えなく、透明ガラスにしてほしい。

6 質疑応答

問1 校舎の不具合について、教育委員会では現場を見に来たのか。

答1 教育委員会に見に来ていただいている。雨漏り、トイレ、電気のスイッチなどの改善を要望している。屋根の雨漏り工事は今年度予算化されたと聞いている。

問2 家庭学習の取組について、時間の確保が大変だと思うが、休み時間とか、仕掛けづくりが必要では。

答2 生徒から学習アンケートを取っており、教科が好きか嫌いにかかっている。いかにして好きにさせるのかにあると考えている。

問3 学校運営の方針はどこまで配布しているのか。

答3 全教職員に配布し、今年度の取組として、意識していただいている。

7 所感

校長先生から、三中の生徒は立派な生徒であること。このことは学区の小学校の取り組みが良いことも上げられると話をしていて。それから、生徒会活動も素晴らしく、挨拶運動の取組で、隣接されている上平沢小学校の校門に行き挨拶をしていることを述べていた。

都会の生徒が本校の生徒と比べ、学習時間の長いことを踏まえ、家庭学習の習慣化と内容の充実に取り組んでいることの説明もあった。

12年目を向かえた2年生の学年行事で行ってきた田植えを今年は全校で行い、収穫したお米を昨年盟約した姉妹都市東京都日野市で修学旅行の時に販売することになったいきさつの話があり、継続して良い取組をしていると思った。

いじめについては、ないわけではなく、悪口に対しても、対処の仕方を教え、集団になれるように、生徒・学年間で自由に言い合える関係になるように指導していた。

学校運営の方針を定めて、生徒が「志」を持ち、その実現のために一生懸命生きる生徒になるよう、教職員が一体となり目標が達成できる学校経営に取り組んでいる様子が伺えた。

また、施設の老朽化に伴って、雨漏りをはじめトイレ、排水、照明の電源など設備の不具合については改修する必要があると感じた。

【現地調査先】

紫波町立水分小学校

1 沿革の概要

- 明治 6年 升沢小学校として創立
- 明治 22年 合併により水分村誕生
- 大正 元年 校歌(清き泉)制定
- 昭和 38年 創立 90周年式典 新校歌(朝ぎり)制定
- 昭和 48年 創立 100周年式典 記念事業(百年山)
- 昭和 53年 新校舎落成 記念事業(遊具・テレビ設置)
- 昭和 58年 屋内運動場落成
- 平成 元年 水分交通少年団結成 10周年記念式典
- 平成 19年 東北管区警察局長・東北交通安全協会会長表彰
- 平成 21年 水分交通少年団結成 30周年記念式典
- 平成 29年 全国・交通安全優良校表彰

2 児童数及び学級数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
男子	10	8	5	7	6	4	40
女子	2	7	4	6	7	7	33
計	12	15	9	13	13	11	73
学級数	1	1	1	1	1	1	6

3 学校経営方針

(1) 学校教育目標

- ア 進んで学習する子ども
- イ 体をきたえる子ども
- ウ 思いやりのある子ども
- エ 進んで働く子ども

(2) 具体的な取り組み

- ア 相手に伝わるようにはっきり話せるようにする
- イ 国語科と算数科の学習指導を通して、読む力や考える力、伝える力を身に付けさせる
- ウ 授業で「学びたい」「分かった・できた」と思う子を増やす
- エ 目標に向かって粘り強く運動を続けようとする力を高める
- オ オアシス運動(オハヨウ、アリガトウ、シツレイシマス、スミマセン)に取り組み、学校でも地域でも言えるようにする

(3) 平成 30 年度学校経営の重点

- ア 基礎・基本の重視と指導法改善による学力向上
- イ 言語活動の充実による思考力・表現力を高める授業の推進
- ウ 教育課程の編成を工夫した特色ある教育活動の展開
- エ 児童の実態の的確な把握による特性を活かした学級経営
- オ 発達段階を踏まえた計画・日常的な体力増進と健康保持
- カ 家庭・地域の連携・交流による児童の健全育成
- キ 全職員の参画意識、協働による学校経営の活性化

4 質疑応答

問 1 登下校の際、保護者による車での送迎はないようだが肥満児はいるのか。

答 1 9名程いる。児童会の提案により 1・2回縦割り班あそびで鬼ごっこなどを行っているが、何かをやらなくてはならないと感じている。

問 2 学校再編によるコミュニティ・スクールの案が出ている。地域との連携は既にできていると感じるが、どのように捉えているのか。

答 2 既にその形はできており、ここにいればそれが継続できる。計画案通り移転することになれば、今までの地域の方々との関わり方をどうすればいいのかが大きな課題になる。

5 所感

校門から 100m程直線に進むと右手に昇降口が見える。掃除時間に到着をしたので、作業中の元気な子どもたちの姿と挨拶に出会えた。日頃から、地域の方々と触れているおかげで挨拶が自然にできるのだろう。校長先生からの学校経営の説明を頂き、私たちが来るのを楽しみにしていたというので、早速、授業の様子を覗ようと教室へ入ると、どの教室でも笑顔溢れるもてなしを受け嬉しく感じた。

学校の特色の一つに、水分交通少年団がある。今年 5 月に行われた第 39 回目の交通安全パレードには、関係者の方々はもちろん、地域・家族の方々が大勢駆けつけ子どもたちを激励したとのこと。また、畑作業・田植え体験でも地域の方々に協力を頂きながら、水分地区全体で子育てを応援しているのが充分に感じ取ることができた。

【現地調査先】 紫波町立星山小学校

1 沿革の概要等

- 昭和 30 年 町村合併により紫波町立星山小学校と改称
昭和 41 年 校舎を新築、記念式典挙行
昭和 55 年 学校プール落成
平成 6 年 運動会で、5・6 年が星山神楽を初披露
平成 19 年 新校舎完成
平成 24 年 特別支援学級設置
平成 28 年 開校 140 周年記念植樹（オオヤマザクラ）

2 児童数及び学級数

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	ほしの子	計
男子	5	2	5	0	0	2	0	14
女子	3	3	3	4	2	4	1	20
合計	8	5	8	4	2	6	1	34
学級数	1	1	1		1		1	5

3 要旨

(1) 学校教育目標

- ア 広い視野を持ち、進んで学ぶ子どもを育てる
イ 思いやりの心を持ち、協力して活動する子どもを育てる
ウ 健康で、たくましく生きる子どもを育てる

(2) めざす児童像

- ア よく学び、工夫する子（知）
イ 真心を込めて、がんばる子（徳）
ウ 健やかに、心身をきたえる子（体）

(3) 研究主題

- 子どもたちの「学び」を拓く
ー自分の考えを深めるための交流の在り方ー
〈目指す子ども〉
ア 先生や友達の話をしっかり聞き、問題解決に取り組むことができる。
イ 自分の考えを工夫して表現し、友達に伝えることができる。

(4) 今年度の経営方針

- ア 学校規模の縮小・統合を見越した学校運営の在り方の検討

- イ 特別支援教育の重視
 - ウ 自他の良さを認め、他者と協力しながら自己を成長させることができる児童の育成
 - エ 問題解決的な学習の指導法の工夫改善
 - オ 個に応じた指導の充実
 - カ 外遊びや体力づくりの推進、生活リズム、食育などの指導を通じた自己管理能力の育成
 - キ 保護者、地域社会等との連携・協働
 - ク 読書活動の深化・充実、言語力の向上
 - ケ 道徳の指導を中心とした豊かな心、人間関係形成能力（自己理解力、コミュニケーション能力）の育成
 - コ 復興教育の推進、実践的な危機回避能力の育成
 - サ 職員の経営参画意識の向上
- (5) 今年度の重点
- ア 授業力の向上
 - イ 基礎学力の向上
 - ウ 豊かな心の育成
 - エ 基本的生活習慣の育成と体力の向上
 - オ 家庭・地域との連携
- (6) 学力向上について
- ア 学力調査を生かす
 - イ 説明のスキルを高める
 - ウ 複式指導について学習する。
 - エ 授業力の向上を目指す
- (7) 「つながり」を大切にした経営
- ア 児童間のつながり…縦割り班、集団下校など
 - イ 地域の皆さんとのかかわり…スクールガード、マラソン大会の応援、収穫祭など
 - ウ 外部講師をお招きして
 - エ 他校の児童とのかかわり…林間学校、修学旅行

4 質疑応答

問1 特別な支援を要する児童の状況は。

答1 教職員の目が行き届き、手をかけられるので、教室内で目立つことなく過ごしている。また、特別支援学級在籍の児童も、ほとんどの授業をみんなと一緒に受けている。

問2 仲間はずれなどの問題はないか。

答2 現在はない。

問3 仮に統合された場合、神楽のような伝統芸能への取組はどの様になるか。

答3 学校での取組は難しいであろう。地域で伝承して行く事となるであろう。
他地域では、放課後にクラブとして取り組んでいるところもある。

5 所感

星山小学校は北上川の東部に位置し、学校の周辺には田園風景が広がっている。

校舎は木造で、廊下の木目が温かさを感じさせる。校舎内は清掃が行き届いており清潔感があった。子どもたちは、毎日頑張って掃除をしているのであろう。

授業風景は児童も教師もはつらつとしており、児童と先生の良好な関係を窺い知ることができた。本格的に始まった外国語活動の授業は、楽しそうな子どもたちの表情が印象的であった。しかし、学年毎に別の内容の複式授業では、子どもたちは対応しているとの話ではあったが、まだ課題があると感じた。

地域との関わりは良好であり、マラソン大会では、地域の方々が沿道で声援を送ってくれるという。また、学校行事には、地域の方々が様々な形で協力してくれている。どこの小規模校にも共通することではあるが、地域が「子どもたちを育てる」という意識をしっかりと持っている表れであらう。

今後、コミュニティスクールが取り入れられると、学校と地域の関係の重要性が増してくる。時代の変化に対応しながら、子どもの健全な育成、学習環境を維持していくことを念頭に置きながら十分な議論をしていかなければならない。

1 沿革の概要

明治 20 年	佐比内尋常小学校と改称
昭和 30 年	佐比内小学校と改称
昭和 53 年	屋内体育館新築落成
昭和 63 年	創立 110 周年記念式典挙行
平成 18 年	創立 130 周年記念式典挙行
平成 22 年	複式学級 2 学級となり 4 学級編成
平成 25 年	学校公開研究会開催
平成 27 年	町政 60 周年記念植樹に参加

2 児童数及び学級数

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
男子	3	3	2	7	2	3	20
女子	1	6	1	1	4	0	13
計	4	9	3	8	6	3	33
学級	1	1	1		1		4

3 今年度の経営の重点（平成 30 年学校教育計画）

佐比内小学校は、明治 9 年 9 月 1 日に開設され、今年で 142 年目に入る。

児童 33 名のかけがえのない一人ひとりの健やかな成長を願い、校訓と学校教育目標の実現を目標に、「学力向上（基礎・基本の確かな定着）」「健康・体力の向上」「豊かな心の育成」という基本を大切にし、教職員が協力して取り組みたいと考える。

学校は佐比内学校の教育に期待を寄せる保護者・地域の期待にこたえ、その連携と協力を大切にしながら、学校としての教育課題に誠意をもって取り組む。

今年度は、平成 32 年度からはじまる新学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）の移行期 1 年目にあたり、特別の教科道徳や外国語活動・外国語への準備に取り組む大切な 1 年間となる。

なお、その年の児童数の状況により学級編成が変わることになり、その状況を考えた柔軟な教育計画・活動が求められる。

(1) 「知・徳・体」向上への取り組み

ア 基礎・基本的な学習内容の確かな定着

＝わかる授業・考える授業づくり＝

(ア) 思考・判断・表現の場の確保

- (イ) 習熟の時間 家庭学習の習慣化
- (ウ) 道徳、英語・外国語活動への取り組み
- イ 基本的な生活習慣の育成
 - (ア) あいさつ運動（先手あいさつ）
 - (イ) 考える道徳、読書への取り組み
 - (ウ) 集団づくり学級・学校・縦割り班
 - (エ) 自己存在感と他者受容感 協力性の育成
 - (オ) わが家の憲法の取り組み（地区教振）
 - (カ) 金山太鼓の伝承活動（演奏・礼儀・マナー）
 - (キ) 生活アンケート 教育相談の実施
- ウ 健康でたくましい身体の育成
 - (ア) 体育（活動の確保）遊びの充実
 - (イ) 早寝早起き朝ご飯運動の継続
 - (ウ) 食育（学習）への取り組み
 - (エ) 「自分でつくる弁当」の日
- (2) 復興教育の推進
 - ア 防災教育と「いわての復興教育」副読本の活用
 - イ 係活動と役割意識・勤労意識、ボランティア活動への取り組み
- (3) 地域・PTA・教育振興運動との協働による教育活動の推進
 - ア 地域から学ぶ活動（金山太鼓、金山祭りへの参加）
 - ー参加と地域に関わる意識づくり
 - イ ピカリン農園での栽培・収穫・販売活動
 - ー教育振興運動との連携
 - ウ 地域行事への参加と交流（児童、教員、校長、副校長）

4 質疑応答

問1 いじめはないのか

答1 生活アンケートや面談しながら、家庭連絡ノートでやっている。自分の事は中々困ったとはいえない、訴えられないのが当たり前と捉えるようにしている。

問2 特別支援に該当するような児童の状況はあるのか。

答2 1名いると見ている。親の理解を得て校長も算数の授業をしている状況であり、支援員をお願いしたいと思っている。

問3 新学習指導要領移行期に入り、特別の教科道徳とあるが、どのような取り組みがあるのか。

答3 教科という段階ではないが、かつての総合学習の取り組みのようなことで、児童のよいところを評価して記録することになっている。

問4 早寝早起き朝ご飯運動を掲げているが、具体的にどういうことか。

答4 言葉のとおりであり、県PTA連合会が呼びかけているものを家庭生活の中で取り組んでいただいている。

5 所感

佐比内小学校では、わかる授業・考える授業づくりをしている。集団で学ぶ、お世話する気持ちを育てていること。食育の取り組みや縦割り班による清掃、給食が上げられ、少人数でも授業など工夫して取り組みしていることが伺えた。

さらに、肥満が少ないこと。金山太鼓が地域の協力を得て取り組んできていることやわが家の憲法が30年も継続していることが特筆される。

欠席児童が昨年と比べ多くなっているが、風邪とか骨折の児童や難病を持っている児童がいるからとの話しがあった。

今後、小学校のその年の児童数により、今の複式の枠組であればよいと思うが、1・2年生、4・5年生の組み合わせの編成になった場合のことを考えた柔軟な教育計画が求められていると述べていたが、今後の学級編成に対する対応を考えていかなければならないことを感じた。